

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-294188

(43)Date of publication of application : 28.11.1989

(51)Int.Cl.

B66B 11/02

(21)Application number : 63-122518

(71)Applicant : MITSUBISHI ELECTRIC CORP

(22)Date of filing : 19.05.1988

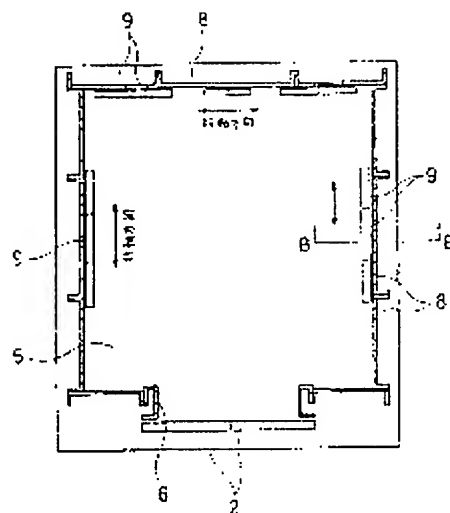
(72)Inventor : NAGATA YUKIHIRO

(54) CAGE ROOM PANEL FOR ELEVATOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To invariably keep the image in a cage room in the fresh state by removably providing multiple decorative panels on the side of a base panel facing the cage room for a cage room panel with a double structure of the base panel and decorative panels.

CONSTITUTION: This cage room panel is constituted of a base panel 8 provided on the periphery of a cage room and multiple decorative panels 9 movably arranged on the side of the base panel 8 facing the cage room. The decorative panels 9 are horizontally movably fitted on the base panel 8. The surface shape, color and pattern of the cage room panel can be optionally changed by changing the arrangement of the decorative panels 8 as appropriate. When the arrangement of the decorative panels 9 is changed from time to time, a favorable impression can be given to users such as passengers.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of

⑫ 公開特許公報(A) 平1-294188

⑤ Int.Cl.⁴
B 66 B 11/02識別記号 庁内整理番号
G-6758-3F

⑬ 公開 平成1年(1989)11月28日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 エレベータのカゴ室内パネル

⑯ 特 願 昭63-122518

⑰ 出 願 昭63(1988)5月19日

⑱ 発 明 者 永 田 征 洋 愛知県稲沢市菱町1番地 三菱電機株式会社稲沢製作所内
⑲ 出 願 人 三菱電機株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号
⑳ 代 理 人 弁理士 大岩 増雄 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

エレベータのカゴ室内パネル

2. 特許請求の範囲

カゴ室の周囲に配設してカゴ室を形成する素地
パネルと、

前記素地パネルのカゴ室内側の面に沿って移動
可能に配設した複数の化粧パネルと、
を具備することを特徴とするエレベータのカゴ室
内パネル。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明はエレベータのカゴ室内パネルに関す
るものであり、特に、素地パネルと化粧パネルと
の二重構造からなるエレベータのカゴ室内パネル
に関するものである。

〔従来の技術〕

第5図は従来のエレベータのカゴ室内パネルを
用いたカゴ室を示す側面図、第6図は第5図のカ
ゴ室内を示す横断面図、第7図は第6図の円C部
を示す拡大図である。

図において、(1)はカゴ室周囲に配設したカ
ゴ室内パネル、(2)は左右両引式の開閉扉であ
るカゴ扉、(3)はカゴ室内パネル(1)の下端
部に位置する裾部材、(4)はカゴ室の天井、
(5)はカゴ床、(6)はカゴ室の出入口柱、
(7)はカゴ室内パネル(1)の接続及び固定用
のボルトである。

従来のエレベータのカゴ室内パネルは上記のよ
うに構成されており、カゴ室周囲に複数のカゴ室
内パネル(1)を配設し、カゴ室の側壁を構成し
ている。

上記のカゴ室内パネルは固定式であり、通常、
カゴ室内パネル(1)のカゴ室内に面する側は面
一な状態で取付けられている。そして、このカゴ
室内パネル(1)の表面は綺麗な化粧仕上面とな
っている。

しかし、カゴ室内パネル(1)の表面は必ずしも、面一であるだけでなく、表面形状に変化を付けたものもある。第8図に示すエレベータのカゴ室内パネルがその例である。

第8図は従来の他のエレベータのカゴ室内パネルを用いたカゴ室を示す横断面図である。なお、図中、(1)、(2)、(5)及び(6)は上記従来例の構成部分と同一または相当する構成部分であるので、それらの重複する説明を省略する。

このカゴ室内パネルは、カゴ室内に面する表面に段差を設けて取付けてあり、これは、特に、カゴ室内の乗客等に好印象を与えるために、カゴ室内の意匠性を考慮したものである。

〔発明が解決しようとする課題〕

上記のような従来のエレベータのカゴ室内パネルでは、カゴ室内パネル(1)が堅固に固定状態で配設されていた。したがって、常に、同一のカゴ室内パネル(1)が、しかも、同一の状態でカゴ室内に表出しており、エレベータが長寿命であ

ることを考慮すると、カゴ室内のイメージの新鮮さが次第に失われていた。このため、カゴ室内パネル(1)の取替え、或いは、改造等により時々変化を与えない限り、乗客等の利用者に古臭さ、厭気を与えることもあった。

そこで、カゴ室内パネルの表面に時々変化を与えるために、室内パネルを素地パネルと化粧パネルとの二重構造にし、化粧パネルの交換が可能なものもあった。この種のカゴ室内パネルは、例えば、実開昭50-37621号公報に示されている。

しかし、従来の化粧パネルの交換式のカゴ室内パネルにおいては、化粧パネルの交換作業が面倒であったり、或いは、化粧パネルの取付位置が限定されており、化粧パネルの裏表面を交換するだけで対応するものであった。

したがって、カゴ室内パネルを頻繁に変化させるには適していなかった。また、カゴ室内パネルの表面形状は一定であり、カゴ室内の変化の度合いが少ないため、必ずしも、カゴ室内のイメージの

新鮮さが維持できるとはいえなかった。このために、これらを改善する必要があった。

そこで、この発明は、カゴ室内パネルの変化を任意に、しかも簡単に変更できるエレベータのカゴ室内パネルの提供を課題とするものである。

〔課題を解決するための手段〕

この発明にかかるエレベータのカゴ室内パネルは、カゴ室周囲に配設した素地パネル(8)と、前記素地パネル(8)のカゴ室内に面する側に移動可能に配設した複数の化粧パネル(9)とからなるものである。

〔作用〕

この発明のエレベータのカゴ室内パネルにおいては、周囲に素地パネル(8)を配してカゴ室を形成し、この素地パネル(8)のカゴ室内に面する側に複数の化粧パネル(9)を移動可能に配設したものであるから、化粧パネル(9)を適宜移動させて、カゴ室内のカゴ室内パネルの表面形状

を任意に変化させることができる。

〔実施例〕

第1図はこの発明の一実施例であるエレベータのカゴ室内パネルを用いたカゴ室内を示す斜視図、第2図は第1図のA-A断面を示す断面図、第3図は第2図のB-B断面の要部を示す拡大断面図である。なお、図中、(2)から(6)は上記従来例の構成部分と同一または相当する構成部分であるので、それらの重複する説明を省略する。

図において、(8)はカゴ室周囲に配設した素地パネル、(9)は素地パネル(8)のカゴ室内側に素地パネル(8)に沿って適宜配した化粧パネルである。(10)はカゴ室の天井板、(11)は素地パネル(8)の上端部を天井板(10)に固定している取付部材、(12)は取付部材(11)と素地パネル(8)の上端部とで構成されている溝状のガイドレール、(13)は裾部材(3)と化粧パネル(9)の下端部とで構成されている溝状のガイドレールである。(14)は化粧パネ

ル(9)の上端部及び下端部に各々装着した転走ローラであり、各々ガイドレール(12)、(13)に沿って転動可能な状態で装着されている。(15)は化粧パネル(9)が勝手に移動するのを防止するための固定ボルトである。

この実施例のエレベータのカゴ室内パネルは上記のように構成されており、化粧パネル(9)が素地パネル(8)上を水平方向に移動可能な状態に装着されている。

したがって、この化粧パネル(9)の配置を適宜変化させることにより、カゴ室内パネルの表面形状、色彩、模様等を任意に変化させることができる。

このため、化粧パネル(9)の配置を時々変化させることにより、カゴ室内のイメージを常に新鮮な状態に保つことができるので、乗客等の利用者に好印象を与えることができる。

しかも、この化粧パネル(9)の移動は極めて容易に行なうことができるので、カゴ室内パネルの表面形状を変更する作業が速やかに行なうこと

ができる。したがって、特に、カゴ室内パネルを頻繁に変化させたい場合、或いは、早急に変化させたい場合、所定の閉間毎に模様替えする場合等に適している。

このように、この実施例のエレベータのカゴ室内パネルは、カゴ室内パネルの形状変更の作業性がよいうえに、変化の度合も比較的大きく、しかも、カゴ室内パネル表面形状、色彩、模様等を任意に変化させることができるので、極めて有用度が高く、利用範囲の拡充を図ることができる。

ここで、この発明の他の実施例のエレベータのカゴ室内パネルについて説明する。第4図はこの発明の他の実施例であるエレベータのカゴ室内パネルを用いたカゴ室内を示す斜視図である。なお、図中、(3)から(5)、(8)、及び(9)は上記従来例の構成部分と同一または相当する構成部分であるので、それらの重複する説明を省略する。

図において、(16)はカゴ室のコーナ部に上下方向に配設したガイドレールである。

ネルとすることもできる。

そして、上記実施例では化粧パネル(9)の特定の方向を内面とするものであるが、本発明を実施する場合には、化粧パネル(9)の両面がその回転または嵌め替えによって内面とするようにすることもできる。

[発明の効果]

以上説明したとおり、この発明のエレベータのカゴ室内パネルは、カゴ室を形成するその周囲の素地パネルのカゴ室内に面する側に、複数の化粧パネルを移動可能に配設したものであるから、化粧パネルを適宜移動させて、カゴ室内のカゴ室内パネルの表面形状、色彩、模様を任意に変化させることができるので、化粧パネルの配置を時々変化させて、カゴ室内のイメージを常に新鮮な状態に保つことができる。したがって、乗客等の利用者に好印象を与え得る付加価値の高いエレベータのカゴ室内パネルとすることができる。

この実施例では、化粧パネル(9)を上下方向に移動させることができる。したがって、この場合も、化粧パネル(9)の配置を適宜変化させることにより、カゴ室内パネルの表面形状、色彩、模様等を任意に変化させることができる。そして、上記実施例と同様の効果を得ることができる。

このように、この発明のエレベータのカゴ室内パネルにおいては、化粧パネル(9)の移動方向を任意に選択して採用することができる。また、カゴ室内パネルの各面ごとに、化粧パネル(9)の移動方向を変化させ、任意の組合せとすることも可能である。

ところで、上記の各実施例では、化粧パネル(9)の移動を主に手動で行なうものについて説明をしたが、この移動をモータ等を用いて電動で行なうようにしてもよい。

また、上記の各実施例では、化粧パネル(9)の厚みが一定であり、カゴ室内側への突出量が一定のカゴ室内パネルについて説明したが、この厚みに予め変化を与え、複数段からなるカゴ室内パ

4. 図面の簡単な説明

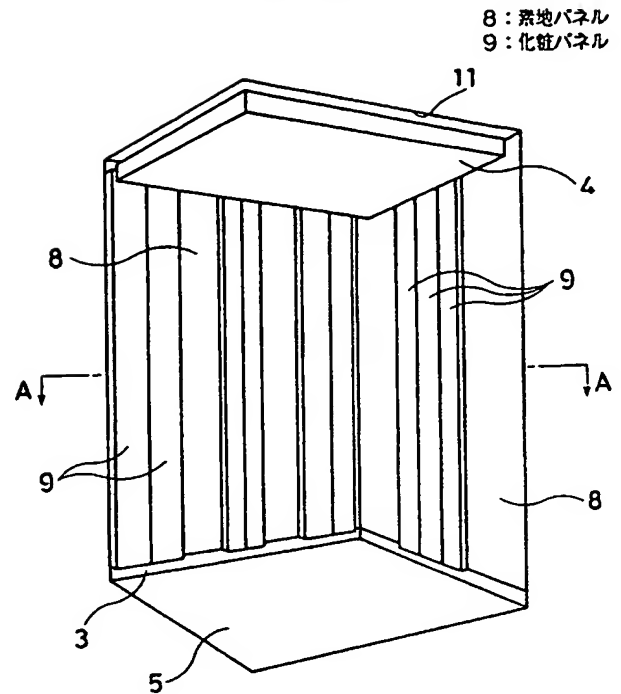
第1図はこの発明の一実施例であるエレベータのカゴ室内パネルを用いたカゴ室内を示す斜視図、第2図は第1図のA-A断面を示す断面図、第3図は第2図のB-B断面の要部を示す拡大断面図、第4図はこの発明の他の実施例であるエレベータのカゴ室内パネルを用いたカゴ室内を示す斜視図、第5図は従来のエレベータのカゴ室内パネルを用いたカゴ室を示す側面図、第6図は第5図のカゴ室内を示す横断面図、第7図は第6図の円C部を示す拡大図、第8図は従来の他のエレベータのカゴ室内パネルを用いたカゴ室を示す横断面図である。

図において、
8：素地パネル、 9：化粧パネル、
である。

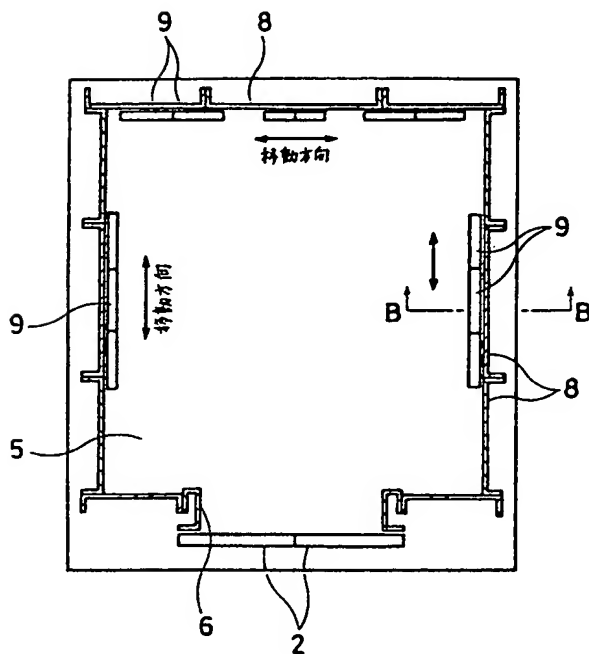
なお、図中、同一符号及び同一記号は同一または相当部分を示すものである。

代理人 弁理士 大岩 増雄 外2名

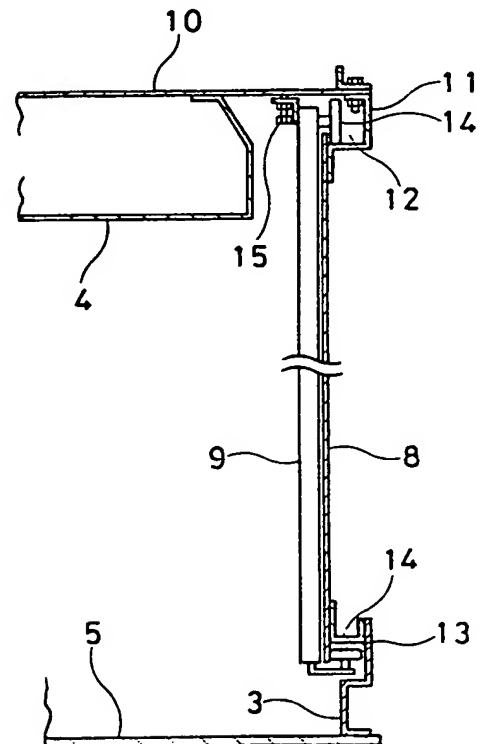
第1図



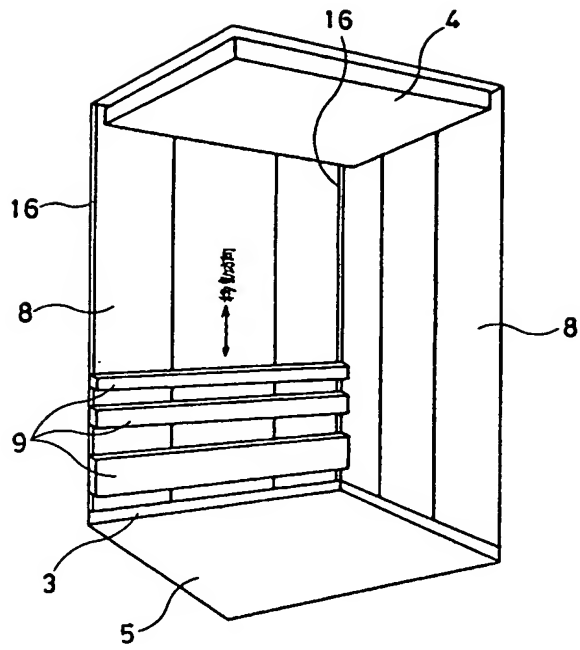
第2図



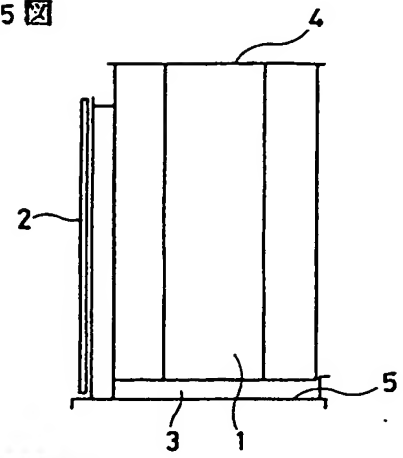
第3図



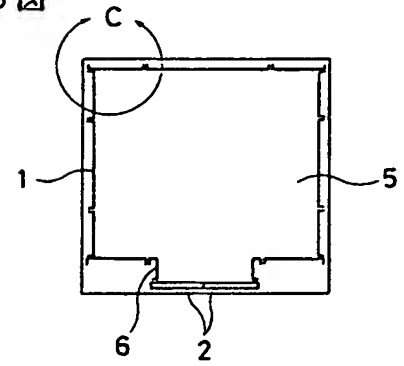
第4図



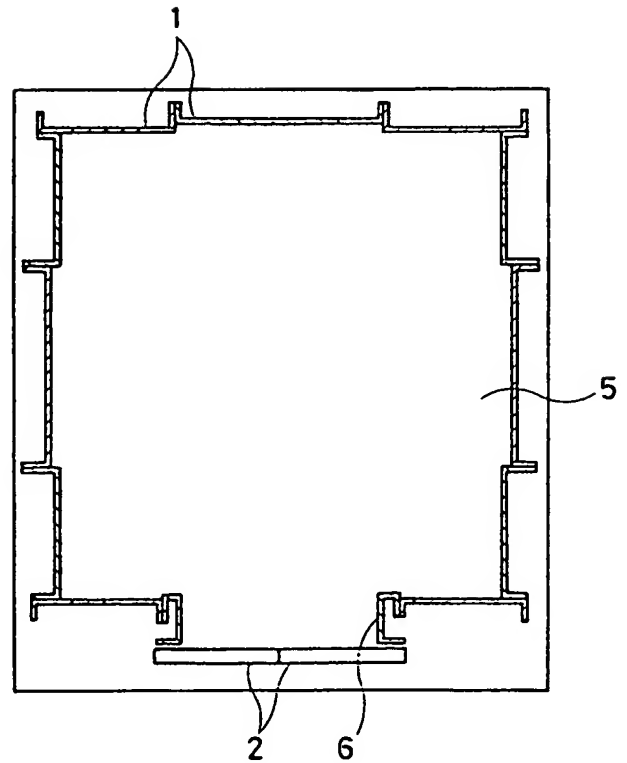
第5図



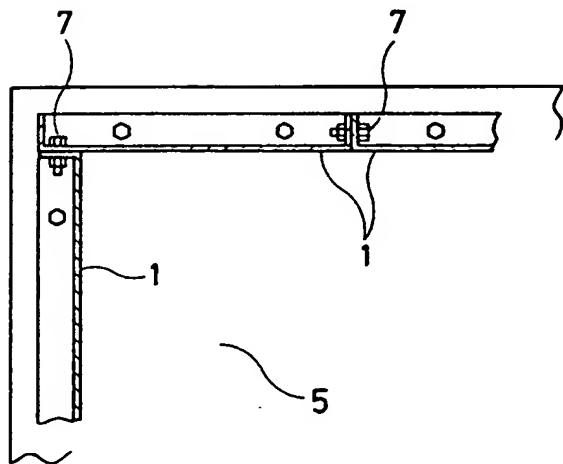
第6図



第8図



第7図



手続補正書(自発)

昭和 1 年 1 月 25 日
平成 1 年 1 月 25 日

特許庁長官殿

1. 事件の表示 特願昭 63-122518号

2. 発明の名称

エレベータのカゴ室内パネル

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人
住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
名 称 (601)三菱電機株式会社
代表者 志 岐 守 哉

4. 代 理 人

住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
三菱電機株式会社内
氏 名 (7375)弁理士 大 岩 増 雄
(連絡先03(213)3421特許部)

5. 補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の欄

6. 補正の内容

明細書の第4頁上第10行目の

「実開昭」を

「実公昭」と補正する。

方式 ③
審査

